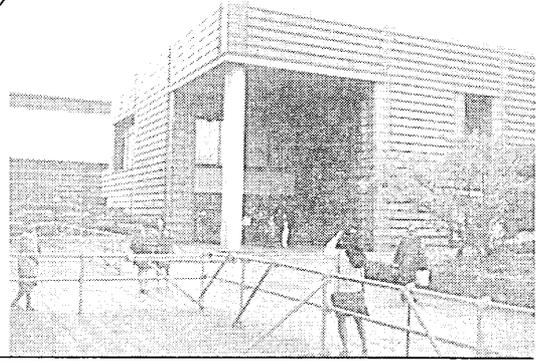


リソース・ライブラリー 3

国立国会図書館



爽やかな秋晴れのある日、国立国会図書館（以下国会図書館と略す）を訪れた。本誌シリーズ「リソースライブラリー」に何とか国会図書館の紹介をしたくて国内協力課の隅山さんに相談したところ、一度いらっしませんかとお誘いを受けた。またとない見学の機会に恵まれて編集部員ほか総勢8名とても楽しみに新幹線に乗った。

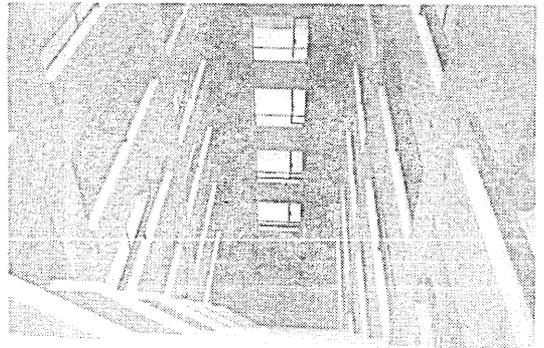
地下鉄有楽町線の「永田町」で下車、約束の午後1時に国会図書館に到着した。当日は見学者ということで南口玄関より入館。待つほどもなく隅山さんが出迎えてくださって、いよいよ見学ツアーが開始された。最初は新館3階の研修室でビデオによる国会図書館の概要を見せていただき、その後新館、本館の順に案内していただいた。新館書庫の地下8階にまで光の届く光庭に感嘆し、書庫に整然と並べられている膨大な資料に目を奪われ、当協議会機関誌「病院図書室」が図書館学資料室に整理されているのを見て喜んでいるうちにあっという間に時間が過ぎていった。また、科学技術資料室では福田さんから1時間近くも興味深いお話を聞くことができたことは望外の喜びであった。百聞は一見に如かずと言うが、ほんとうによい体験をさせていただいた。

以下、大規模で多くの機能を持つ国会図書館のどこをどのように紹介すればいいのか迷うが、利用方法を中心に簡単に紹介したい。

* * * * *

わが国唯一の国立図書館であり、またわが国唯

一の納本図書館でもある国立国会図書館は中央館、国会分館、支部上野図書館、支部東洋文庫、行政・司法各部門の支部図書館35館で構成されている。国内で刊行される出版物を網羅的に収集、それを永久保存すると同時に購入（外国の科学技術関係の逐次刊行物、社会科学部門の図書等）や交換・寄贈によって資料を収集し、保存図書館として、



▲光庭（新館地下）



▲新館書庫

また一大情報センターとしての役割を果たしている。言い換えれば国会に対する調査機能を併せもつ国民のための大規模総合図書館であるということが出来る。国立国会図書館案内によると平成4年12月末現在の[現況統計]は表1のとおりである。

表1

〔現況統計〕	
	(平成4年12月末現在)
▷蔵書数	
図書	5,847,204冊
地 図	355,278枚
レコード	359,718枚
マイクロフィルム	198,603リール
新聞・雑誌など	128,458種
▷国会に対する奉仕(1年間)	
レファレンス回答	22,560件
閲覧資料数	5,648点
貸出資料数(国会分館所管資料を含む)	36,169点
▷行政・司法部門に対する奉仕(1年間)	
レファレンス回答	920件
貸出資料数(図書館間)	3,823点
▷一般公衆に対する奉仕(1年間)	
レファレンス回答	291,384件
貸出資料数(図書館間)	14,347点
閲覧資料数	1,618,200点
1日平均閲覧資料数	6,743点
閲覧人員	517,954人
1日平均閲覧人員	2,158人

表2

当館の利用について

利用できる人 満20歳以上の人
 資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
 開 覧 閲覧時間(月～土) 9:30～17:00
 資料請求受付(月～土) 9:30～16:00
 複 写 即日複写(月～土)10:00～15:30
 後日渡し複写(月～土)10:00～12:15
 13:15～16:30
 マイクロ複写(月～金)10:00～12:15
 13:15～16:30
 (第3土曜日)10:00～12:15
 13:15～15:30
 資料案内(レファレンス) (月～土) 9:30～17:00
 休館日 日曜日、土曜日(第3土曜日は除く)
 国民の祝日・休日、年末年始
 毎月の第3、第4月曜日(祝日にあたるときは翌日)

1. 国立国会図書館の利用

国会図書館の資料は満20歳以上の人ならだれでも利用できる。受付で利用カードを受け取り入館するが、このカードは公共図書館などのように特定の個人を識別するIDカードではなく、当日のみ有効で、退館の際には返却するしくみになっている。利用時間等は表2のとおり。

入館は本館入口と新館入口から。新館吹き抜け大ホールには池田満寿夫の斬新なデザインのタペストリーが飾られ、入館者の目を楽しませてくれる。一部の資料を除いてすべて閉架式になっているため資料請求に先だてて目録を調べることが必要である。当日は卒論準備のための学生たちで雑誌目録ホールは混雑していた。

2. 遠方からの利用(「対図書館サービス」)

国会図書館は来館者に対するサービスを行うと同時に「図書館の図書館」として全国の図書館に向けて「対図書館サービス」を行っている。遠方に住んでいる者にとってはたびたび出かけることはとても不可能で、これはそういった遠方の利用者には嬉しいサービスである。

国会図書館の「対図書館サービス」は国内の各

一般研究室の利用は登録制です。利用希望者は、一般研究室利用申込書を提出して承認を受けてください。申込の際には身分を証明する書類が必要です。学部学生の利用はできません。

利用申込の受付

場所 本館2階の来館利用者受付
 時間 (月～金) 9:30～19:00
 (第3土曜日) 9:30～17:00
 閲覧時間 (月～金) 9:30～20:00
 (第3土曜日) 9:30～17:00
 資料請求受付 (月～金) 9:30～19:00
 (第3土曜日) 9:30～16:00

20:00まで利用できる閲覧室・資料室

一般研究室、参考図書室、新聞閲覧室、科学技術資料室、法令議会資料室

種図書館に対して、それぞれの図書館で利用者の求めに応じられなかった資料や情報について、図書の貸出、資料の複写、レファレンスサービスを行うものである。申し込み手段は郵送、ファクシミリ、電話、来館の4つの方法があり、「図書館協力ハンドブック」1991年版によるとサービスの

表3

おもな定期刊行物

サービスの種類	利用手段	郵 送	ファクシミリ	電 話	来 館
図書の貸出		○	○	×	○
複写サービス		○	○	×	○*
レファレンスサービス		○	○	④*	④*

○申し込みできます。この場合、所定の「申込書」をご使用ください。
 ×申し込みできません。
 ※仔細は各項目をご参照ください。

種類と申し込み手段は次のようである。ただし、電話での申し込みはレファレンスサービスに限られているので注意が必要。また、図書の貸出は貸出制度に加入する方法と専門図書館協議会加盟図書館への図書貸出を利用する方法の二つの方法があるようである。それぞれのサービスを受けるためには所定の申込書や手続き、条件があるので、詳細は「図書館協力ハンドブック」で十分確かめること。ハンドブック申し込み先は以下のとおりである。

〒100 東京都千代田区永田町1-10-1
 国立国会図書館図書館協力部
 国内協力課 連絡係

特に病院図書室に関係があると思われる「資料の複写」については参考までに複写料金表を掲載しておく。

その他のサービスとしては印刷カードの作成と頒布、JAPAN/MARCの作成(J-BISCの作成と販売は日本図書館協会で行っている)、ISSNの登録受付、種々の刊行物の刊行等がある。これらはそれぞれ異なった係で扱われるので、連絡先の確認が必要である。このうち、国会図書館の発行する主な定期刊行物リストは表3のとおり。

3. 科学技術資料室

この部屋は私たちに関係の深い科学技術関係の資料を集めた部屋である。この分野の図書、学術

国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物目録 国立国会図書館所蔵外国逐次刊行物目録 国立国会図書館所蔵児童図書目録 日本科学技術関係逐次刊行物総覧 国立国会図書館所蔵科学技術関係欧文会議録目録 国立国会図書館所蔵地図目録 国立国会図書館年報 国立国会図書館月報 日本全国書誌(週刊) 同索引(季刊) 日本法令索引(年刊) 国政統計ハンドブック(年刊) 科学技術文献サービス(季刊) National Diet Library Newsletter(季刊) 参考書誌研究(年2回刊) 国会会議録総索引(会期ごと) 外国の立法(隔月刊) びぶろす(月刊) 雑誌記事索引—人文・社会編, 科学技術編(季刊) 海外科学技術資料月報(月刊) レファレンス(月刊) 洋書速報(月刊) 海外ニュース・ガイド(隔週刊) 図書館研究シリーズ(年刊) 中国語・朝鮮語図書速報(年2回刊) 図書館協力通信(隔月刊) 点字図書・録音図書全国総合目録(年2回刊) カレント・アウェアネス(月刊) アジア資料通報(月刊)

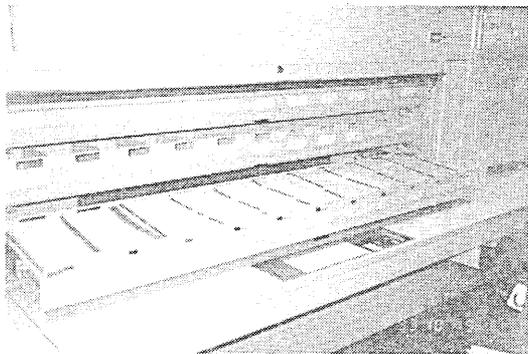
雑誌(約13,000種)、技術リポート、学協会ペーパー、外国博士論文、欧文会議録、規格・特許資料、二次資料等が収集され、利用に供されている。医学関係のものは約3,000種。予算の関係で臨床中心に削られたとのことで医学分野のものはJMLAに頼っている部分があるようである。また、Technical Report類はマイクロ形態のものが多く、1文献ごとにケースに保管されており、現在約200万件を購入している。逐次刊行物の所蔵目録としては「国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物目録」、「国立国会図書館所蔵外国逐次刊行物目録」、「雑誌記事索引」(科学技術編)、「日本科学技術関係逐次刊行物総覧」がある。原子力関係資料や航空・宇宙リポートなどが並ぶなか、部屋の一隅に医学関係抄録索引誌のコーナーがある。見慣れたIndex Medicusや医学中央雑誌が目に入るとやはりほっとするのはおかしなものである。

この部屋ではその他、資料の有無、目録・資料の利用の仕方、文献検索方法などについてレファレンスサービスも行っている。資料の複写につい

【複写料金表】

種	類	料金
電子式複写による印画 原資料と同じ大きさの複写ができます。 紙のサイズ(カラー以外のA4、B4、A3)は、本の大きさ、記載状態によって、作業するときに決めさせていただきます。 A2、A1は、一枚物の複写のみ可能です。	カラー以外	
	A 4 (21.0×29.7)cm	1枚 35円
	B 4 (25.7×36.4)cm	1枚 35円
	A 3 (29.7×42.0)cm	1枚 70円
	A 2 (42.0×59.4)cm	1枚 300円
	A 1 (59.4×84.0)cm	1枚 600円
	カラー	
	B 4 (25.7×36.4)cm	1枚 400円
	A 3 (29.7×42.0)cm	1枚 500円
	マイクロフィッシュからの電子式引伸印画 マイクロフィッシュから電子式複写によって引き伸すものです。	B 4 (25.7×36.4)cm
撮影によるマイクロフィルム 一般資料を35ミリ幅のマイクロ用フィルムに縮小撮影するものです。通常見開きの2頁を1コマに収め、1頁中の部分撮影はいたしません。また、カラー撮影は扱いません。	1申込みにつき、はじめの1コマ	150円
	2コマ以上は、1コマにつき	45円
フィルムからフィルムへのプリント マイクロフィルムをフィルムに密着プリントするもので、ロール・フィルムは、黒白はもとのフィルムの逆になり、シート・フィルムはもとと同じです。	ロール・フィルム	
	1件につき30cmまで	150円
	30cmを超えるときは、30cmごとにシート・フィルム	80円
マイクロフィルムからの引伸印画 マイクロフィルムから引き伸すものです。複写用印画紙に引き伸すものと、電子式引伸しがあります。	A 5 (14.8×21.0)cm 印画紙1枚	80円
	A 4 (21.0×29.7)cm 印画紙1枚	135円
	電子式引伸1枚	50円
	A 3 (29.7×42.0)cm 印画紙1枚	220円
	電子式引伸1枚	120円
	A 2 (42.0×59.4)cm 印画紙1枚	500円

(1991年7月1日現在)



▲マイクロフィッシュの保管庫

ては相互協力ハンドブックに則って行われているが、人的な面やシステム上の理由から2週間~1カ月はかかるということである。これらのサービスについては先に紹介した「図書館協力ハンド

ブック」や「科学技術文献サービス」を参照の上利用すること。

* * * * *

国立国会図書館という一大総合図書館の紹介としてはまことに不十分なものであるが、「利用」を中心に概略を述べた。零細で、しかも利用者の文献要求が多い病院図書室にとって国会図書館の「対図書館サービス」は頼もしい味方である。医学のみならず、さまざまな分野の資料の「最後の拠り所」としてもっともっと国会図書館の機能を知ることが必要だと思った。今回は見学者として裏側から国会図書館を見せていただいたが、次からは一利用者として機会あるごとに何度も訪れてみたい。

今回の訪問で最も深く印象に残り、感銘を受けたことはその「開かれた姿勢」であった。実際に見学するまではいかめしくてとても気軽に利用できない雰囲気や想像していたが、その「思い込み」は大きな誤りだった。見学当日、国会図書館は来館者で溢れ、どの部屋にも資料を調べる利用者の姿があった。一日の来館者数は2000名を超えるとのことである。また、私たちの接した職員の方は数少なかつたが、どの方からも「どうぞ十分利用してください。活用してください」という気持ちが直に伝わってきた。ただしその成り立ちからも分かるように保存図書館としての性格が強いため、「利用」面からはシステムとしては不備な点があるということであった。近い将来、京阪奈丘陵に建設が予定されている第二国立国会図書館はBritish Library Document Supply Centerのように「利用」を中心に運営されるだろうとのこと、今から楽しみである。

長時間私たちのために時間を割いてくださった隅山さん、福田さんに改めてお礼を申し上げたいと思う。

〔国立国会図書館への交通機関〕

地下鉄（丸の内線・千代田線）国会議事堂前 下車
出口 1

〃（有楽町線）永田町下車 出口 2

〃（半蔵門線）永田町下車 出口 3

都営バス（橋63）国会議事堂前下車

〃（銀71）三宅坂下車

〃（茶81）平河町下車

*この記事は著作権を有する国立国会図書館の承認のもとに「国立国会図書館案内」（平成5年7月発行）、「国立国会図書館図書館協力部編：1991 図書館協力ハンドブック」（平成3年2月発行）、および複写料金表（1991年7月1日現在）から転載させていただきました。

（文責 首藤佳子・編集部）



参考・引用文献

1. 国立国会図書館案内, 平成5年7月.
2. 国立国会図書館図書館協力部編: 1991 図書館協力ハンドブック, 国立国会図書館, 平成3年2月.
3. 国立国会図書館専門資料部編: 科学技術文献サービス, 第100・101号, 国立国会図書館, 1993.
4. 国立国会図書館ガイド 科学技術資料, 1993.

